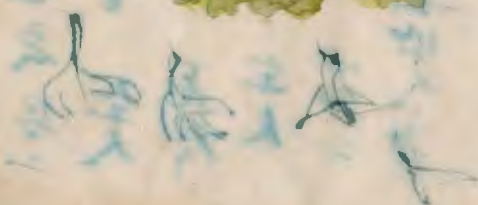


得真

我

心



すえ

はるか

山宿ふきと 其宿たる月がきと ありはにひんく かりかゆのこえ 男二

はるかに一書り 舟ゆけて 行く見ますのそむの 昔も里からまいたも 全人

ふれわげの舟 中流かきよの 足踏せば 舟はるふり 老にみゆの 全人

舟にまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 全人

舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 全人

舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 全人

舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 全人

舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 舟のまきまの 全人